

ドクターインタビュー

足立 厚子(あだち あつこ)先生

兵庫県立加古川医療センター 皮膚科部長

足立先生は、兵庫県立加古川医療センター・皮膚科で、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、金属アレルギーなどのアレルギー疾患の専門医療を行っておられます。主に、金属アレルギーについてお話を伺いました。

— 先生が皮膚科医を目指されたきっかけなどございますか？

医師になろうと思ったのは大学進学の時です。数学物理が好きで理科系に進学を考えたとき、人と話すことも好きでしたので最終的に医学部を選びました。当初は小児科を選択していましたが、女性が家庭と両立しながらじっくり取り組むには皮膚科の方がいいと考え変更しました。皮膚科はアレルギーの診察などがメインとなり、子育てや食事など日常生活に関係することが多く、女性にとっては身近なことが多い専門科目だと思います。患者さんいろいろなことを話しやすいのではと感じています。

— 日々の診察はどのように進められるのですか？

診察には、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、金属アレルギーの患者さんが多く来られます。アトピー性皮膚炎に関しては、まず原因を検査してほしいと来られる患者さんがおられますが、検査の予約を待つ間なども最初からお薬をちゃんと飲む、しっかり塗るという治療が大事ですよということを伝えます。増悪因子も調べます。患者さんは、「なんで悪くなったか」ということを知りたいんですよ。増悪因子を調べず治そうという考え方もありますが、私は患者さんが知りたいのなら、検査をして悪いこともないと思うので、治療と並行して行っています。検査は、主に血液検査でIgE、RASTを調べ、必要であればパッチテストも行います。パッチテスト中は週4回診察に来てもらうので患者さんと親しくなりますね。パッチテストの内容は、こちらで用意したスタンダードな項目だけでも30種類ほどありますが、プラス患者さんが気になるもの、化粧品や塗り薬などを持ってきてもらいます。治りにくいときは、塗り薬も合っていない可能性があるので一緒にパッチテストを行います。そうして、増悪因子を調べながら、ちゃんとお薬を塗っているかなど経過を診ながら治療を進めます。

— 先生は、「アトピー性皮膚炎と金属アレルギー」をテーマに博士号を取得されておられます。金属による接触皮膚炎、特に全身型金属アレルギーについて教えていただけますか。

金属接触アレルギーは、腕時計やアクセサリ、革製品などに含まれる金属が皮膚に接触して皮膚炎を起こすものです。ニッケル、コバルト、クロムなどがアレルギーを起こすことの多い金属で、特にアクセサリの使用頻度の高い女性に多い傾向がありますね。

一方、主に食べ物や飲み物、歯科金属に含まれる微量金属が体内に吸収され皮膚が起るのが全身型金属アレルギーです。汗疱状湿疹がその代表で、難治性手湿疹の一つです。体内に吸収された金属が、汗などで排泄されたところに発疹が起きます。手や足が一番汗をかきやすく、皮膚も厚いので皮膚の下に汗が溜まり水泡になって痒くなるといった症状が起ることがあります。掌蹠は汗に含まれる金属が最も高い部位でもあり、全身型金属アレルギーの皮膚の好発部位といえます。治療は、金属アレルギーがあるかないかによって異なります。金属アレルギーがあるための汗疱湿疹となれば、金属を吸収しないようにすれば軽快します。パッチテストで陽性になる金属によって違いますが、ニッケル、コバルト、クロムなどが陽性の場合、それを多く含む食品を控えると汗をかいても湿疹が出なくなるというケースが多くみられます。

時に、全身型金属アレルギーは、アトピー性皮膚炎に似た皮膚症状を発症することがあります。また、アトピー性皮膚炎であっても、金属アレルギーを合併していることもあり、金属制限食、歯科金属除去を行うことで、軽快する症例もあります。直接接触してかぶれを起こして



DOCTOR INTERVIEW

DOCTOR INTERVIEW

足立 厚子(あだち あつこ)先生のプロフィール

兵庫県立加古川医療センター 皮膚科部長

【ご経歴】

- 1987年 神戸大学皮膚科学教室入局
- 1989年 兵庫県立加古川病院皮膚科医長
- 1994年 神鋼病院皮膚科医長
- 1995年 「アトピー性皮膚炎と金属アレルギー」をテーマに博士号取得
- 1997年 兵庫県立加古川病院皮膚科医長・同部長、兵庫県立加古川医療センターに移転・改称

【所属】

日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本癌治療学会暫定教育指導医、日本アレルギー学会代議員、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会理事、編集委員、神戸大学皮膚科臨床教授、医学博士

いる可能性があれば、そのパッチテストを行い、金属かぶれがあり、汗をかくと酷くなるということなら全身型金属アレルギーを疑います。

— 全身型金属アレルギーの具体的な治療法を教えてください。

皮膚の特徴や発汗での増悪などの症状から全身型金属アレルギーを疑う際、検査はまずパッチテストから始めます。本来内服テストが必要ですが、困難な場合は金属を多く含む食品を食事で負荷する方法もあります。検査で陽性になれば、まず原因と思われる金属との接触の回避をし、次に該当する金属の摂取制限を行います。

食品の摂取制限は、ニッケル、クロム、コバルトなどを多く含むチョコレート、豆類、貝類、ナッツ、レバーなどを控えてもらいます。豆なら主に大豆製品になりますが、醤油や味噌などは食べてもかまいません。豆腐や枝豆などの大豆そのものの食品を食べないようにして、はっきりと効果があるかをみます。こういったものを控えると効率的だということ、決して一口も食べたらだめということではありません。そして、1ヵ月ほど続けても効果がない場合は中止します。金属アレルギーに限らず良くないのは、例えば豆乳がいいと思って豆乳ばかり飲んでいて、一つの食品を多く摂取すること。テレビ番組で何かがいいとなると、そればかり食べるのは、アレルギーのある人は控えておいた方がいいと思います。

歯科金属に入っているパラジウム、金、水銀、錫などや、矯正金属に使用されるニッケル、クロム、コバルトなどの金属が疑われる場合は、患者さんによっては、歯科を受診して自身の金属アレルギーの金属が使用されていないかを確認してもらいます。検査で金やパラジウムしかアレルギーが出なかった場合は、歯科金属から起きている可能性が高いと言えます。一般に金属アレルギーというと、歯科金属を考える方が多いですが、私はどちらかという食物に対する注意の方から考えます。食事制限なら効果がなければ止めればいいですが、歯は一度抜いてしまうと引き返せないし、治療費もかかります。金属アレルギーによる歯の治療は、1年前から皮膚科医の診断書があれば一部